

イタリア文化論Ⅱ

科目ナンバリング EUS-106
選択 2単位

横田 太郎

1. 授業の概要(ねらい)

イタリアといえば、優れた美術や音楽、また、デザインや料理、あるいは、サッカーなどが思い浮かぶことでしょう。しかし、イタリア、とくに1400年代のフィレンツェは、学問とはなにかという問題について、大いに議論がなされた土地でもあります。当時の学問とは、すなわち読書です。そこで、この授業では「読書とはなにか」という疑問を、人文主義者の言葉を通して考えていきます。

秋季は、市民的人文主義に対する反応の一つとして、芸術三書を執筆し、建築家としても名高かった、レオン・バッティスタ・アルベルティの学問観に焦点を当て、知の在り方として、読書がいかに不完全であるとみなされているのか、確認していきます。

2. 授業の到達目標

我々にとってなじみのうすい人文主義者の思想に触れて、イタリア文化についての理解を深める。
人文主義者の思想に、我々のそれとは異なる部分と同時に、共通する部分もあることを認識する。

3. 成績評価の方法および基準

出席、リアクションペーパー、授業への参加態度、期末試験(受講生の数によってはレポート)により、総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

適宜プリントを配布します。

5. 準備学修の内容

基本的に予習の必要はありませんが、事前に配布したプリントに目を通してきてもらう場合もあります。

6. その他履修上の注意事項

授業では、人文主義者によるテキスト(和訳あるいは英訳)を、みなで一緒に読んでいきます。新たに触れる思想に対する自分なりの意見を、リアクションペーパー、グループ・ワーク、授業内での発言を通して、積極的に表現してもらいます。そのためにも、授業には必ず出席してください。

なお、以下の授業計画は、あくまでも計画です。授業の進み具合、また、受講生の興味に応じて、変更する可能性があります。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------------------|
| 【第1回】 | イントロダクション |
| 【第2回】 | 1400年代前半におけるフィレンツェ学問界の動向 |
| 【第3回】 | 同上 |
| 【第4回】 | アルベルティ:読書は快楽をもたらすのか |
| 【第5回】 | 同上 |
| 【第6回】 | 同上 |
| 【第7回】 | アルベルティ:読書は金銭的富をもたらすのか |
| 【第8回】 | 同上 |
| 【第9回】 | 同上 |
| 【第10回】 | アルベルティ:読書は社会的名声をもたらすのか |
| 【第11回】 | 同上 |
| 【第12回】 | 同上 |
| 【第13回】 | 読書はなにをもたらすのか |
| 【第14回】 | 同上 |
| 【第15回】 | まとめと試験 |